

はまなが まき
濱長 真紀さん

JICA 海外協力隊 2007 年度 3 次隊

派遣国：ベリーズ 職種：体育

2022 年 5 月 8 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています



恩返し 遠い国を身近に

大学卒業間近。恐る恐る開いた青年海外協力隊の合格通知書。そこで初めて知った中米のベリーズという国。

ベリーズ北部のコロザル県サンローマン村。タマネギと卵しか買えないこの小さな村の小学校で、2 年間体育教育の普及に努めた。朝は家から学校までの道の途中、2 年生のジョスリンという女の子が毎日私を待つ。昼になると、学校の近くに住むミス・コレアが遠くから大きく手を振る。家に招かれるとテーブルには、刺しゅうを施した布に包まれたトルティーヤとその日のメイン料理。

確か、チョコレートを使った料理を初めて口にしたのも、この家だ。

授業を終え、夕方帰宅すると大家のミス・パティとハンモックに揺られながら、まだ熟さないマンゴーにハバネロと塩をまぜた粉末を付けて食べる。そして「この地が好きだ」と彼らは皆、口にする。そんな何も変わらない日々に私は満たされた。

世界には多くの課題があり、受け止めきれない悲惨なニュースに「遠い国の話だ」と時に気付かないふりをしてしまう。でも、その国に顔を知る「あの人」を思い描くことができれば、ニュースは一気に近づく。

そんなことを思い、今、遠く離れた日本で、海外とつながる場を提供する団体を立ち上げ活動している。人々のその素地となる心を耕していくことが、一生返せない彼らへの「恩返し」の一つになればと思う。

そして、私は今でもたまに、グーグルアースで村の様子を空から眺め、彼らの顔をよく思い出すのだ。



ベリーズの子どもにミサンガの作り方を教える